

変化に応え、普遍性を守り、人間を洞察する。
376年の歴史を基礎に挑む、新たな大学創造。



龍谷大学
学長 赤松 徹真氏
▶ interviewer
頭取 大道 良夫

滋賀の産業界とも関わりが深い龍谷大学。「人間を深く見つめ、理解する」姿勢で教育・研究に取り組み、社会への還元を続ける。今年4月には農学部と国際学部を開設し、新たな大学創造を目指してダイナミックに動く。

生命を尊び、平和な共存を願い
真実を求める人間を育てたい

大道●「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」。浄土真宗の教えに基づくこの建学の精神を、今の学生さんにも伝わりやすいよう、「平等の心、自立の心、内省の心、感謝の心、平和の心」の五つの言葉で表しておられます。

赤松■1639(寛永16)年、西本願寺の境内に設けられた学寮(宗学の研究機関)をルーツとする本学は、宗祖親鸞聖人の教えを根底に据え、376年に及ぶ歴史を刻んできました。阿弥陀仏の願いが、全ての人類を等しく照らし、そのおかげで私たちは無量の生命に恵まれている。こんな認識に立ったうえで、生かされていることへの感謝を忘れず、全ての生命を尊び、真実を求めて真実に生きる自立の心を持ち、常にわが身を省みながら、人類の平和な共存を願う。そのような人間を育てていきたい。それが建学の精神を実践する道だと考えています。

大道●仏教思想に明るくない私にも、目に見えない大きな存在によって生かされているという感覚は理解できます。それは自然の恵みや宇宙の営みなのかもしれないですが、その感覚を持つことで謙虚さや感謝の心が芽生え、他者を尊重するようになります。貴学の建学精神には信条の違いを超えた普遍性を感じます。

科学と人間をつなぐ視点から
理工学部を新設

赤松■本日お越しいただいたこの瀬田キャンパスを1989年に開設し、同時に



新たに国際学部が開設される「深草キャンパス」(和顔館)

国内の仏教系大学としては初の自然科学系学部である理工学部を新設した背景には、科学技術の著しい発展に対する問題意識がありました。技術革新が進む一方で、その技術を人間社会がどのように享受するのか、科学は我々に何をもたらすのかという視点との距離が広がるようになってきたのです。それならば、人間や社会への洞察を積み重ねてきた本学ならではの視点で、科学技術の革新というテーマに取り組みとともに、その基盤である「科学と人間をつなぐ」哲学や倫理観を構築していこう。そう考えたわけです。

大道●先ほど「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」を見学させていただきました。貴学が保存されている貴重な歴史資料を後世へ遺すため、高精細デジタル映像技術を駆使した文化財や文化遺産のデータベース化に取り組んでおられます。まさに「科学を人間のためにどう役立てるか」の実践ですね。

赤松■現在は20世紀初頭に敦煌莫高窟で発見された大量の文書の一部、いわゆるフランスの「ペリオコレクション」ですが、この文献資料の科学的分析プロジェクトとその結果の公開を進めています。また、中国のトルファン郊外にあるベゼクリク石窟寺院の大回廊をデジタル復元し、最新の画像技術でよみがえった荘厳華麗な壁画を本学が運営する仏教総合博物館「龍谷ミュージアム」(京都市下京区)で公開。アジアに咲いた「仏教の美」を広くご紹介できるように努めています。

大道●貴学は蓄えられた知的財産のエクステンション(普及)にもとても熱心で、91年に瀬田キャンパス、2001年には深草キャンパスで開設された龍谷エクステンションセンター(REC)はその象徴です。共同研究や受託研究などの産学官連携により滋賀経済は大きな恩恵を受けていますし、レンタルラボから孵化したベンチャー企業もたくさんあります。

「第5次長期計画」を進め
大学の個性を明確に発信

赤松■RECは地域社会へ知的資源を還元する窓口であり、生涯学習等の公開講座や、学生サークルが子供たちに野球や



グローバルスタディーズ学科では卒業時のTOEIC®目標スコアを定め、高い英語力を目指す



龍谷大学 学長
赤松 徹眞氏
(あかまつてっしん)

1949年生まれ。龍谷大学大学院文学研究科修士課程修了、龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得満期退学(文学修士)。84年龍谷大学文学部講師、87年文学部助教授、98年文学部教授、2005年教学部長、2007年文学部長、2011年第18代学長に就任。専門は日本仏教史、真宗史、近代史。

学校概要

龍谷大学

- 本部所在地/京都市伏見区深草塚本町67
- 大宮キャンパス/文学部(3・4年)
- 深草キャンパス/文学部(1・2年)、経済学部、経営学部、法学部、政策学部、国際学部(2015年4月開設予定)
- 瀬田キャンパス/理工学部、社会学部、農学部(2015年4月開設予定)
- URL/http://www.ryukoku.ac.jp/

建学の精神

龍谷大学の「建学の精神」は「浄土真宗の精神」です。浄土真宗の精神とは、生きとし生けるもの全てを、迷いから悟りへ転換させたいという阿弥陀仏の誓願に他なりません。迷いとは、自己中心的な見方によって、真実を知らずに自ら苦しみをつくり出しているあり方です。悟りとは自己中心性を離れ、ありのままのすがたをありのままに見ることのできる真実の安らぎのあり方です。阿弥陀仏の願いに照らされ、自らの自己中心性が顕わにされることにおいて、初めて自己の思想・観念・価値観等を絶対視する硬直した視点から解放され、広く柔らかな視野を獲得することができるのです。本学は、阿弥陀仏の願いに生かされ、真実の道を歩まれた親鸞聖人の生き方に学び、「真実を求め、真実に生き、真実を顕かにする」ことのできる人間を育成します。このことを実現する心として以下5項目にまとめられています。これらはみな、建学の精神あつてこそ心であり、生き方です。

- ・すべてのいのちを大切に「平等」の心
- ・真実を求め真実に生きる「自立」の心
- ・常にわが身をかえりみる「内省」の心
- ・生かされていることへの「感謝」の心
- ・人類の対話と共存を願う「平和」の心

プロフィール

- 1639年 西本願寺境内に学寮竣工
- 1879年 大宮学舎が講堂として完成
- 1922年 龍谷大学と改称
- 1949年 文学部(4年制)を開設
- 1960年 深草学舎を開学
- 1961年 経済学部を開設
- 1966年 経営学部を開設
- 1968年 法学部を開設
- 1989年 瀬田学舎を開学。理工学部、社会学部を開設
- 1996年 国際文化学部を開設
- 2009年 創立370周年を迎える
- 2011年 政策学部を開設。龍谷ミュージアムを開設
- 2015年4月 農学部、国際学部を開設(予定)



「バゼクリク石窟寺院の大回廊」の復元画を前に画像技術の説明を聞く、左から岡田理工学部教授、大道頭取、赤松徹眞学長

期人口の減少が進み、どこの大学でも今が転換期だと実感されています。

赤松 ■ それに伴い、産業界や学術団体等をはじめ社会から、大学の価値への期待がかつてなく高まっています。どんな個性を発揮するのか。社会に何を還元していくのか。これからの大学はそれを明確にブランドとして提示することが必要になってきます。本学は「進取と共生、世界に響き合う龍谷大学」のスローガンのもと、2010年度から19年度までの「第5次長期計画」を推進中です。この4月でちょうど折り返しを迎えますが、過去5年間で教育改革、国際化、学生のキャリア支援をはじめとするさまざまな課題に取り組んできました。

スローガンとロゴマークに込める大学創造への強い意志

大道 ● 「You, Unlimited」のスローガンや新ロゴマークを策定した。新しい龍谷ブランドの開発もその一つですね。

赤松 ■ 「皆さんは無限の可能性を持っています」というメッセージで、その可能性の追求と開花を呼びかけるスローガンです。未来を目指す情熱や伸びやかな成長を表すロゴマークは、建学の精神の現代的表現であるとともに、新たな大学創造に進んでいく意志を社会に明確に発信するものです。

大道 ● 過去5年間の取り組みの中で「就

職に強い龍谷大学」を目指され、13年度には94.7%という高い就職・進路決定率を達成されています。さらに、雑誌社が13年に発表した就業後の社会的・職業的自立能力を表す「就業力」で関西圏大学1位に輝かれました。

赤松 ■ 専門のキャリア支援センターを設けてサポート体制の充実を図ったほか、ゼミでもキャリアカウンセラーによる自己分析力指導を組み入れるなど、キャリア教育を日常教育の一環として位置づけて取り組んできた成果だと思っています。

大道 ● 多くの企業が新卒者に求めるものは、専門知識よりもコミュニケーション能力や人と話す力です。最近の若い人はビジネスの場での自己表現が不得手なようですが。赤松 ■ 今の社会には「小さな失敗も許さない」といった空気が蔓延して、幼い頃から、自分を装う、体面を保つことを身につける傾向にあるからかもしれません。自分の不十分なところを受け入れる、壁をつくらずに人と接するという姿勢が、成長につながると思います。

食の循環サイクルを学び農業をマネジメントする農学部

大道 ● なるほど。我々の側も彼らが気負いを持たず自由闊達に話ができる雰囲気をつくるのが重要ですね。さて、「第5次

のあり方とも深く結びついていますね。次に国際学部の改組・移転について教えてください。

赤松 ■ 多様な言語を学び、異なる文化や価値観の理解を目指す従来の国際文化学科に加えて、英語によるコミュニケーション能力でグローバルな思考力、倫理観を身につけるグローバルスタディーズ学科を新設し、「多文化共生人材の育成」を一層ダイナミックに進めていきます。国際都市・京都にキャンパスを移すことで世界中からのビジターと交流できる機会が増えますし、地の利を生かして次代のグローバル人材の育成に全力投球していきます。

赤松 ■ 深草の国際ハウスは、海外からの留学生と日本人在校生が共同生活を送りながら相互理解を深める場として設けました。また15年度から供用を開始する深草キャンパス和顔館にはイングリッシュラウンジやマルチリンガルラウンジ等を設け、多文化共生 commons(共同で学び合う場)にしていきます。今後も「時代が大学に求めるもの」をつぶさにキャッチして、それにながら教育や研究を進めなくてはなりません。それとともに「人間を深く見つけ、理解する」という本学の本質を、さらに深めていきたいと考えています。

大道 ● 龍谷大学さんのさらなるご発展を心より祈念いたします。本日はありがとうございました。



瀬田キャンパスに新設される農学部の新棟(完成予想パース)